

## 概要

単体では無電圧接点またはオープンコレクタ信号入力の過速度検出器ですが、F/V変換器(FWV)との組み合わせで、正弦波入力または矩形波入力の過速度検出器としてご使用できます。

## 特長

- 高速応答(動作時間: 単体 35ms、FWV 組合せ時: 40ms)
- 入力、出力、補助電源、外箱相互間の耐電圧は、AC2000V(50/60Hz)1分間の絶縁。
- 警報出力は2回路で、相互間絶縁。(耐電圧AC500V)
- 警報出力は、検出時の動作指定可能。(ONまたはOFF)
- 前面のスイッチ操作で動作値の設定変更が可能。(トリップモード)設定範囲: 105.0~120.0%、0.1%ステップ。
- テスト機能付(バックアップロックアウト機能)設定範囲: 90.0~120.0%、0.1%ステップ。
- 設定値をデジタル表示可能。
- モニタランプで検出状態を表示。
- ソケットは標準付属。(多連ベース使用時はソケット不要とご指定ください)  
ソケット名: FW11



FWMR-□□×□□□□□  
(29.5×76×125mm) / 180g

## 仕様一覧

●ご指定方法		形名	仕様コード			
		<b>FWMR-□□X□□□□□</b>				
入力の種類	入力周波数	警報出力1 光 MOS FETリレー 1a接点	警報出力2 光 MOS FETリレー 1a接点	補助電源	電源ヒューズ	仕様 (2)
[2]: 無電圧接点、 オープンコレクタ (検出電圧約12V)	[N]: 0~1.000kHz [O]: 0~2.000kHz [P]: 0~3.000kHz [Q]: 0~4.000kHz [R]: 0~5.000kHz [S]: 0~6.000kHz [T]: 0~7.000kHz [U]: 0~8.000kHz [V]: 0~9.000kHz [W]: 0~10.000kHz [Z] 上記以外 (1)	[1]: 検出で接点ON (H検出) [2]: 検出で接点OFF (H検出)	[1]: 検出で接点ON (H検出) [2]: 検出で接点OFF (H検出)	[5]: DC24V ±10%	[1]: ヒューズ無し [2]: ヒューズ有り	定格: 出力接点容量: AC・DC125V 70mA 特性: 設定精度: ±0.5% 動作時間: 40ms以下 ヒステリシス幅: 3~10% 温度の影響: 0.2%/10℃ 消費VA: DC24V: 2.5W

注(1) 仕様コード「Z 上記以外」につきましてはご相談ください。  
入力定格周波数が1kHz~10kHzの範囲で「Z 上記以外」の場合は、数字4桁にてご指定ください。  
(2) 仕様の%は、入力定格周波数に対する%を示す。

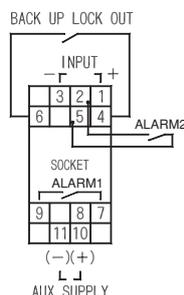
## 性能

項目	仕様	
表示・設定	設定値可変範囲	105.0 ~ 120.0%
	設定値分解能	0.1%
	設定方法	前面スイッチにて設定
	設定値表示	ドットマトリックスLED 4桁 緑色 文字高 3.7mm (ただし、スイッチ操作終了1分後に設定値表示は減光します。小数点は銘板表示です)
	設定値保存	設定値は不揮発メモリにてデータ保存 (出荷時、トリップモード: 110%、バックアップロックアウトモード: 99%)
	モニタランプ (AL)	検出時点灯、非検出時消灯 (赤色LED)
バックアップ ロックアウト機能	バックアップロックアウト機能を使用することにより、実稼働中の設定値を維持しつつ設定変更しての検出動作が可能となります。 BACK UP LOCK OUT端子を短絡することで、バックアップロックアウトモードの設定・動作に切り替わり、前面TEST LED (緑) が点灯します。 開放すると短絡前の設定・動作に戻り、TEST LEDも消灯します。また、バックアップロックアウトモードでは、90.0~120.0%の設定範囲が可能となり、定格範囲内の入力でも検出動作の確認が可能となります。 BACK UP LOCK OUT入力は、入力状態の検出に100msの確認タイマーを設けています。 トリップモード ↔ バックアップロックアウトモードの切替は、入力変更してから100ms後となります。	

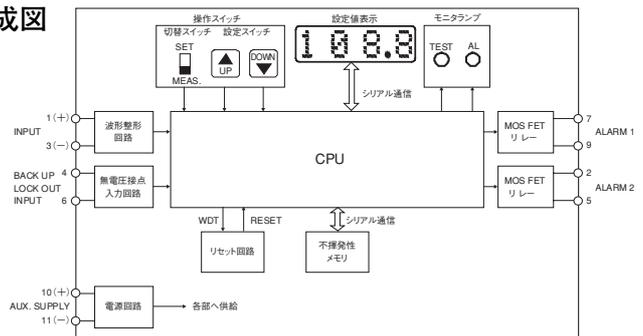
## 結線図

多連ベースの場合は、結線が異なりますのでFWBAは90ページ、FSBSは91ページ、FWBSは92ページをご覧ください。

### ●ソケット (FW11)



## 構成図



(図中の数字はソケットの端子番号を表す)